

# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

## 平成29年度担当者会の開催報告

平成29年10月5日(木)～6日(金)の2日間、福岡県荇田町にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 担当者会を開催しました。当日は約70名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、6日に行われました現地視察では、九州電力(株)荇田発電所や日産自動車九州(株)九州工場を視察しました。



担当者会の様子

### ●開会

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、山本 洋史 広島市都市整備局みなと振興課長より、「本年6月2日に和歌山県和歌山市において開催された総会及び第11回瀬戸内海首長サミットでは、13名の首長様に参加いただき、『瀬戸内の魅力を世界へ向けて発信～クルーズ等による瀬戸内の地域資源を活かした観光振興～』をテーマに建設的なご議論をいただき、非常に有意義なものとなった。本日の4つの実行委員会(分科会)においても率直な意見を出していただくことによって、より中身の濃い議論をお願いしたい。」との開会挨拶をいただきました。



山本 洋史

広島市都市整備局みなと振興課長



吉廣 啓子 荇田町長

次に、開催地を代表して、吉廣 啓子 荇田町長より、「荇田町は、周防灘に面して荇田港と広大な臨海工業地帯を擁し、荇田港沖には24時間運用可能な北九州空港があり、陸・海・空の玄関口を持つ町である。荇田港は戦前に石炭の積み出し港として建設が始まり、臨海部には、自動車やセメント産業、発電所など日本有数の企業が集積するなど、西瀬戸内地域の物流の拠点として発展してきた。昨年の取扱貨物量は過去最高を記録し、このうち約3分の1の貨物が瀬戸内海の各港に関係している。今後も瀬戸内海沿岸の市町村の皆様と一体となって、海を活かした地域づくりを考え実践し、共に発展していきたい。」との歓迎の挨拶をいただきました。

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部 菅 高德 クルーズ振興・港湾物流企画室長

より、「昨年春に瀬戸内観光推進機構が発足した。瀬戸内海ブランドの向上のためのさまざまな取り組みが始まっている。このような動きに対して当協議会として連携していくという観点からも議論していただければと考えている。」との挨拶を行いました。



菅 高德 中国地方整備局

クルーズ振興・港湾物流企画室長

## ●平成29年度事業報告、分科会（実行委員会）及び全体会

平成29年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行いました。支援事業である「瀬戸内海活性化活動支援」、「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点地環境関連行事等連携支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」、「防災対策推進活動支援」について、引き続き募集を行っていますので会員の皆様の積極的な活用をお願いします。来年度の総会は愛媛県宇和島市にて開催、担当者会については兵庫県神戸市にて開催するので皆様の参加をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

続いて、昨年度の「海ネットイベントプランコンテスト」のイベント実施報告が行われました。最優秀賞「うじな潮風フェスタ」広島市は、「今回で第5回目となり、『広島県内最大級のフラダンスフェスティバル』をテーマにした市民イベントで、会場は絶えず賑わった。イベントが定着してきたことで港の存在が身近になっていると感じた。」と報告して頂きました。



イベントプランコンテスト 実施報告の様子  
最優秀賞 広島市

引き続き、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会の4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成30年度の活動内容についての方向性が提示されました。瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。

## ●分科会

### ■魅力検討委員会

魅力検討委員会では、平成29年度の活動状況と平成30年度の活動方針を議論しました。「海ネットイベントプランコンテスト」に関しては、応募が低調な状況にあったことから、平成29年度に応募より、審査方法が書類審査のみになり、プレゼン及び担当者会での結果報告をなくするなど、手続きも大幅に簡素化したところです。

分科会では、助成されるかどうか、助成される可能性を早期に把握したいという意見が出されました。次年度に実施されるかどうかわからないという意見なども踏まえ、応募の期間を可能な限り延長したところですが、これについては、応募状況など途中経過を会員へ情報提供していくことを確認しました。より多くの申請のために、海ネットの担当課以外にも広げて会員内部で情報共有していくことも確認しました。

また、「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポーター提案事業」については、防災の観点があり、ハードルの高さを感じるという意見が出され、これまでの過去の特に防災の観点をわかりやすく情報提供してはどうかとの意見を頂きました。今後、わかりやすく事例を紹介し、制度利用をより一層促進するための対策を講じることを確認しました。

最後に、平成30年度の活動方針として、「海ネットイベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援するとともに、見直された制度の実施結果を踏まえ、更なる見直しが必要かどうかを検討していくこと、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進することについて、了承されました。



魅力検討委員会の様子

## ■環境事業委員会

これまで環境事業委員会は、「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」を、環境事業委員会の骨格事業として継続して実施しており、その目的は、多くの人が参加できる海岸清掃活動を通じ、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みの理解を深めるものです。

今回の担当者会「環境事業分科会」では、ここ数年、参加者及び回収ゴミ量について減少傾向にあることから、現在の「リフレッシュ瀬戸内」の実施にあたっての問題点について報告いただき、会員間で情報共有するとともに、その改善策について分科会で検討いただきました。

また、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点 環境関連行事等連携支援」について、今年度活用されなかったことから、全体拠点地でイベントを行わない場合は、他の実施地で希望があれば制度活用できるようにしてはどうかと提案を行いました。

① 問題点・改善策について、次の意見をいただきました。

- ・参加者数の減少については、梅田駅や難波駅にチラシを置いてもらうことや、NPO団体等との連携が必要では。
- ・人数だけを伸ばすのであれば、漁協や団体が行っている清掃活動も取り込めばよい。



環境事業委員会の様子

- ・ゴミが少なくやる気がおきないとの声がある。
- ・周辺企業の従業員の参加しかない。
- ・学校に声かけを行ったり、プロ野球選手のサイン会等を行えばどうか。

② 「リフレッシュ瀬戸内全体拠点 環境関連行事等連携支援」について

- ・分科会出席者からは了承をいただきました。

これら議論頂いた結果を受け、リフレッシュ瀬戸内の事業計画に関する部分は、環境事業委員会所属会員と相談の上、来年度の実施方針に反映、幹事会・総会へお諮りしていきます。

## ■情報発信委員会

情報発信委員会では、『海ネットホームページ（以下、HP）の充実に向けた取り組み』と題して、今年度これまでの取り組みと今後の取り組みについて協議しました。

今年度これまでの取り組みとして、下記のこと

- が報告されました。
- ① 4月にHPをリニューアルし、文字の認識性やセキュリティの脆弱性が解消され、またシステムメンテナンス費用も削減された。



情報発信委員会の様子

- ② HPリニューアル後、各会員にID・パスワード・操作マニュアルを配布し、どの会員でも簡単に情報発信が可能となった。
- ③ HPリニューアル前後で今年度と昨年度のアクセス数を比較すると、約2.2倍増と大幅に増加した。

今後の取り組みとして、下記のこと

- が議論されました。
- ① 来年度当初、各会員から通年のイベント情報を集約し、集約された情報を元にHPで情報発信していく。
  - ② 各会員が公表しているクルーズ船の寄港予定情報を海ネットHPにも掲載する。
  - ③ 各会員に定期的に情報発信依頼を行う。
  - ④ 毎年度当初、各会員にID・パスワードを再配布する。
  - ⑤ 各委員会事務局において、活動内容や支援事業等を更新し、また現在、各会員へメールで行っている各種事務連絡をHPに掲載するなど、HPを積極的に活用する。

## ■防災委員会

防災委員会では、平成29年度の取り組みについて状況報告を行うとともに、平成30年度の活動方針、活動内容について議論を行いました。

平成29年度の状況報告では、①締結会員の拡大、②防災活動内容等の情報発信、③情報伝達訓練結果、④防災対策推進活動支援事業、⑤協定締結手続き方法の簡素化・変更について報告を行いました。

- ①については、7月21日に芦屋市、和歌山市、備前市、また8月14日に周南市が協定締結を完

了し、現在の協定締結会員数は74会員になったことを報告しました。

②については、「海の路」webサイトの防災委員会活動計画のページの更新、また最新の協定書を掲載したことを報告しました。

③については、8月10日に実施した情報伝達訓練のマッチング結果やアンケート結果についての説明、また後日会員に結果の取りまとめを送付し、情報の共有を図ることを報告しました。

④については、「海の路」webサイトに情報を掲載するとともに、海ネット全会員にメールで応募の働きかけを行ったことを報告しました。

⑤については、協定参加申請書を協定運営協議会幹事から防災委員会事務局に変更したこと、押印回送の手続きについては、会員数の増大により、長期間を要することから、押印回送を取りやめ、手続きの簡素化を図ったことを報告しました。

また平成30年度の活動方針としては、協定書第12条に規定する協定の実効性の確保に向けての訓練実施と防災対策推進活動支援事業の積極的な活用を図るための広報を重点施策として取り組むことを提案しました。

具体的な活動内容については以下の2点を重点的に取り組んでいくことで了承されました。

#### ①情報伝達訓練方法の見直し

協定締結会員数が当初から飛躍的に増加し、今までの情報伝達訓練の方法では地域ブロック幹事、副幹事の負担が大きすぎるため、新たな方法で訓練を実施していくよう、訓練方法の見直しを検討し、災害時における協定の実効性の確保に繋げていきます。

#### ②防災対策推進活動支援事業の支援要件の緩和

防災対策推進活動支援事業はこれまでに2回しか活用されておらず、平成27年度から応募がない状況です。そのため、広報活動をより積極的に行うとともに、今後広く活用されるよう、支援要件の緩和を検討していくこととします。



防災委員会の様子

## ●現地視察

翌日は、九州電力(株)苅田発電所工場内を視察する予定でしたが、あいにくの雨模様のため急遽変更となり、事務所会議室内において苅田発電所の概要説明、また九州地方整備局苅田港湾事務所から苅田港の概要説明を受けました。

その後、日産自動車九州(株)九州工場において、工場の概要や生産車種等の説明を受けたあと、ゲストホールや工場内を視察しました。工場視察では、各種生産工程を見学し、また当日は完成自動車を運ぶ自動車運搬船が入港しており、遠くからでしたがその大きさには驚かされました。また、ゲストホールには、発売前の新車「リーフ」や昭和12年製モデル「ダットサン」等が展示されており、参加者は興味津々で視察していました。



九州電力苅田発電所の概要説明



苅田港の概要説明



日産自動車九州工場の概要説明



日産自動車九州工場ゲストホール内の視察